

公立中高一貫校 適性検査対策模試

フォローアップ講座 9月号



小5復習問題 +10月号予習問題 & 児童と保護者の受検情報

▽復習問題

- ▼一問一答式チェック問題 1
- ▼テストによく出る説明問題 3
- ▼チャレンジ適性検査問題 5
- ▼解答例・解説 9

○予習問題

- 一問一答式問題 11
- 説明問題 12
- 適性検査問題 13
- 解答例・解説 14

□受検情報

- 児童向け 学習内容を深めよう 2017年9月号 食料生産の安全・安心のために 15
- 学習内容を深めよう 2017年10月号 日本の少子高齢化を考える 17
- 保護者向け 学校説明会で出題傾向を探る 19
- 学習習慣が身についている子が合格する 21





▼一問一答式チェック問題

次の（ A ）～（ S ）にあてはまる最も適切な言葉や数字をそれぞれ答えなさい。

- (1) 日本人は（ A ）を主食としてきたので、つねに生産量が大きく保たれるように努力・研究が続けられてきました。近年は、小麦を原材料とするパンやめん類の食事が増えていますが、日本人の主食はいぜんとして（ A ）です。

A []



- (2) 日本の産業の中心が農林水産業から製造業、サービス業へと変わっていくにつれて、社会での農業の役割は小さくなっていきました。農家をやめる人が増え、多くのわかい働き手が、成長するほかの産業へ移っていきました。これにともない、農業に関わる人たちの（ B ）化が進み、65才以上の割合が高まり続けています。

B []

- (3) 日本の農業は、化学肥料を使用したり、トラクターやコンバインなどの（ C ）を導入したりすることによって、せまい耕地を効率よく利用し、また、さまざまな品種改良をおこなって、農作物の生産を増やしていきました。

C []

- (4) 米づくりは全国各地でおこなわれていますが、代表的な米の産地は、日本海側の越後平野、庄内平野、秋田平野などです。これらの地いきは、（ D ）が豊富な平野部にあり、気候は昼と夜の（ E ）の差が大きいことから、米づくりに適しています。

D [] E []

- (5) 全国各地で、その土地や気候の特ちょうを生かした野菜づくりがおこなわれています。たとえば、冬でも温だんな宮崎県や高知県では、ピーマンやキュウリなどを（ F ）でつくり、ほかの産地よりも早い時期に出荷しています。一方、長野県や群馬県では、すずしい気候を利用して、レタスやキャベツなどの高原野菜を、ほかの産地よりも（ G ）時期につくって出荷しています。どちらも本来生産できない時期に収かくできるので、高い価格で売ることができます。



F [] G []

- (6) その国で消費する食料を、どれだけその国で生産しているかを表した割合を（ H ）といいます。大豆や小麦、トウモロコシなどのこく物や飼料、肉類を多く輸入している日本は、先進国の中で（ H ）が特に低いといえます。

H []



▼テストによく出る説明問題

次の各問いにそれぞれ答えなさい。

- (1) 7月上旬、稲作農家では、稲の根がよくのびて養分の吸収がよくなるように水の管理をおこないます。この作業は中ぼしとよばれますが、具体的には水をどのように調節することか書きなさい。

[

]

- (2) 近年、農薬や化学肥料を使わない有機農法が取り入れられるようになっていきます。図1はその一つで、アイガモというマガモとアヒルをかけ合わせた鳥を水田に放す農法です。しかし、こういった農法には問題点があります。それは具体的に何か書きなさい。

[

]

図1



- (3) 農業において、農薬や化学肥料を使いすぎると悪いえいきょうが出ると考えられていますが、それは具体的にどのようなことですか。それぞれについて説明しなさい。

[農薬

]

[化学肥料

]

- (4) 石油の価格が上がると、野菜の価格も上がります。その理由を説明しなさい。

[

]

- (5) 茨城県はハクサイやピーマンの生産が日本一で、千葉県はハウレンソウやネギの生産が日本一です。このように、茨城県や千葉県などで農業が発達する理由を説明しなさい。

[

]

図2



- (6) 高知平野や宮崎平野で、ピーマンやキュウリ、トマトなどの野菜を、時期を早めて出荷する理由を説明しなさい。

[

]

- (7) 米の生産調整とは何ですか。そのねらいと具体的な方法を説明しなさい。

[

]

- (8) 1980年代なかばから、農作物の輸入が増え始めました。その理由として考えられることを、「価格」と「冷とう技術」の2つの側面から説明しなさい。

[

]



▼チャレンジ適性検査問題

1 次の会話文を読んで、あとの問題に答えなさい。

母：今日のみそしるは、太郎がとなりのおばあさんといっしょにつくってくれたみそを使ったのよ。自分でつくったみその味はどうかしら。

父：とてもおいしいよ。よくできていると思うよ。

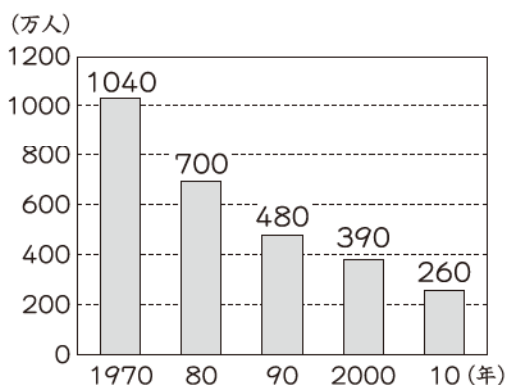
太郎：みそをつくるのに使った大豆も、おばあさんが育てたものなんだよ。学校の東側におばあさんの大豆畑があるんだ。

母：そこは、昔は田んぼだったのよ。

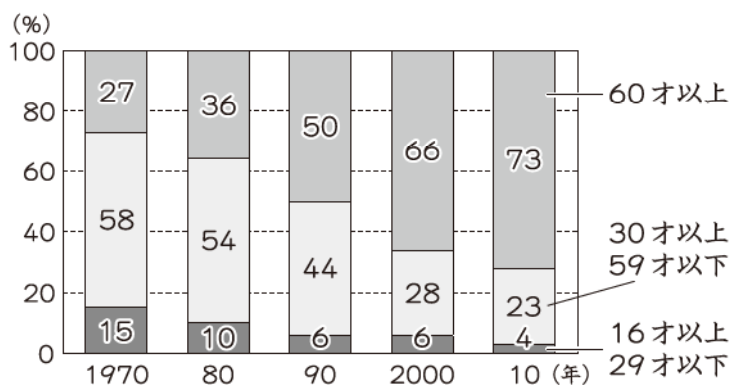
父：畑のほかにも、住たく地やあき地になった田んぼも多いね。お父さんが子どものころは、この辺りも農家が多かったな。

太郎：そういえば、いまは農業に関わる人の多くが60才以上の人たちだと聞いたことがあるよ。それに関する資料があるよ。

資料1 日本の農業人口の移り変わり



資料2 日本の農業人口の年れい別割合の移り変わり



※「%」は、「パーセント」と読む。割合を表す単位の1つで、もとにする量を100としたとき、それに対する比べる量の割合がいくつであるかを表したものである。

〔問題1〕 資料1より、1970年と2010年を比べた場合、40年間で日本の農業人口はどのくらい変化したといえますか。「～倍」または「～分の…」といった表現を用いて書きなさい。

〔問題2〕 資料1・2より、現在の日本における農業の課題について、どのようなことが読み取れますか。あなたの考えもふまえて、読み取れることと課題をまとめて書きなさい。



次の(A)～(J)にあてはまる最も適当な言葉や数字をそれぞれ答えなさい。

- (1) 一定のはん囲(広さ)にどれだけの人が生活しているかを表したものを(A)密度^{みつど}といいます。ふつう、1km²あたりの人口数で表し、日本の(A)密度は335人/km²(2017年現在)です。

A []

- (2) 若者^{わかもの}の晩婚化^{ばんこん か}(ふつうよりもおそく結婚すること)や非婚化(そもそも結婚しないこと)の進行や出生率の低下等により、子どもの数が減ることを(B)化といいます。

B []

- (3) その国の総人口^{そうじんこう}にしめる65才以上の人口の割合が高くなることを(C)化といいます。国連(国際連合^{さいれんごう})のきまりでは、65才以上の人口の割合が総人口の7%をこえる社会を(C)化社会、14%をこえる社会を(C)社会、21%をこえる社会を超(C)社会^{ちやう}といいます。

C []

- (4) ある地いきにおける昼間の人口のことを昼間人口といい、夜間の人口のことを夜間人口^{じやうかん}といいます。夜間人口は、そこに居住^{きよじゅう}している人口と同じになります。ほかの地いきへ通勤・通学する人が多い地いきでは、夜間人口に比べて昼間人口が(D)なり、会社や学校などが多い都心部では、昼間人口に比べて夜間人口が(D)なります。

D []

- (5) 都心部へ人口が流出したことにより、居住者が減少^{じやうたい}しすぎた状態のことを(E)といいます。電車やバスなどの公共交通機関や商店、学校、病院などがなくなることにより、社会生活^{いどう}を営むことがむずかしくなる地いきも多くあります。

E []

- (6) 台風は、(F)から秋にかけて、日本付近に近づきます。台風が近づくと、強い(G)がふいたり、大雨がふったりして、それにとまって自然災害^{さいぜんさいがい}が起きることがあります。

F [] G []

- (7) 過去^{かこ}の記録などをもとにして、火山活動や風水害、こう水などの災害が起きたときにすみやかにひなんし、身の安全が保たれるように、被害^{ひがい}を受ける可能性のある区いきやひなん場所、ひなん経路^{かのうせい}などをまとめた地図のことを「(H)マップ」といいます。

H []

- (8) 2でわりきれる整数を「(I)数」といい、2でわりきれない整数を「(J)数」といいます。

I [] J []



次の各問いにそれぞれ答えなさい。

- (1) 人口密度とは何を表したものの説明しなさい。

[

]

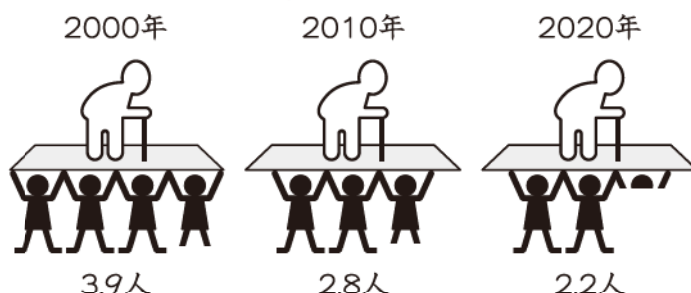
- (2) 日本の人口の増え方は年々小さくなり、近年では人口が減少しつつありますが、その直接的な原因は何ですか。「出生数」「死亡数」という言葉を用いて説明しなさい。なお、出生数とは新しく生まれた子どもの数をいい、死亡数とは死ぬ人の数をいいます。

[

]

- (3) 現在、日本は、生産年れい人口（15～64才の人たち）が高れい者（65才以上の人たち）の生活を支えるしくみを採用しています。図1は、1人の高れい者を何人の生産年れい人口で支えているか（2020年については支える予測であるか）の移り変わりをまとめたものです。この図からわかることをまとめて書きなさい。

図1 1人の高れい者を支える生産年れい人口の移り変わり



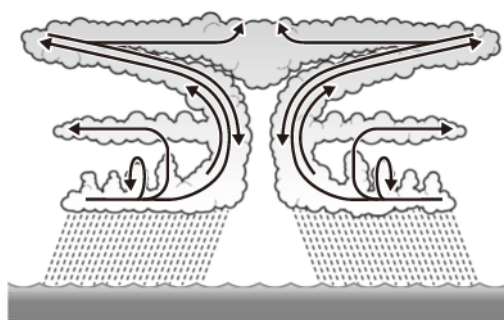
（資料：「日本国勢図会 2017/18」）

[

]

- (4) 日本の南の海上で積らん雲が集まってできた台風は、しめり気が多く、たくさんの雨をふらせます。また、台風の雲はうずをまいていて、うずまきの中心に向かって、時計のはりの動きと反対向きに強い風がふいています。一方、うずまきの中心部分はどのようなになっていますか。図2の台風の様子を参考にして説明しなさい。

図2 台風の様子

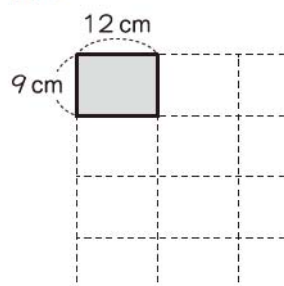


[

]

- (5) たてが9cm、横が12cmの長方形のカードがたくさんあります。これを同じ向きにすき間なくしきつめて正方形をつくっていきます。このとき、最も小さい正方形をつくるのに長方形のカードは何まい必要ですか。考え方を説明したうえで、答えを書きなさい。

図3



考え方

[答え まい]



太郎さんは、総合的な学習の時間での発表に向けて、日本の全世帯数や高れい者のいる世帯数、高れい者だけの世帯数とその内訳（一人暮らしや夫婦だけなど）についての資料を集め、その資料から読み取れることをまとめたうえで、情報化社会との関係についても調べました。これらについて、あとの問題に答えなさい。なお、高れい者とは65才以上の人のことをいいます。

資料 日本の全世帯数と高れい者のいる世帯数、高れい者だけの世帯数とその内訳の移り変わり

(単位：千世帯)

	全世帯数	高齢者のいる世帯数	高齢者だけの世帯数	高齢者だけの世帯数の内訳		
				一人暮らし	夫婦だけ	その他の世帯
1998年	44496	14822	5614	2724	2712	178
2001年	45664	16367	6654	3179	3257	218
2004年	46323	17864	7874	3730	3899	245
2007年	48023	19263	9008	4326	4390	292
2010年	48638	20705	10207	5018	4876	313
2013年	50112	22420	11614	5730	5513	371
2016年	49945	24165	13271	6559	6196	516

(資料：厚生労働省「平成28年 国民生活基礎調査」)

〔問題1〕 資料から読み取れる高れい者だけの世帯数についての大きな移り変わりを、全世帯数と比べたうえで「～倍」という表現を用いて書きなさい。

〔問題2〕 日本のインターネット利用者数はいまや1億人に達する勢いで、5人に4人以上がインターネットを利用しています。また、スマートフォンでインターネットを利用する環境も整っています。そこで、これらの環境を利用して、一人暮らしの高れい者がこまったとき、インターネットを活用して解決できる場合があると考えられています。あなたが考える例（高れい者がこまることとインターネットを活用して解決する方法）を1つ書きなさい。

高れい者がこまること

解決する方法



児童向け 食料生産の安全・安心のために

農作物の病気を防いだり、害虫を取りのぞいたりする農薬。土に混ぜるなどして、農作物に栄養分を補給する肥料。これらは食料の生産には欠かせないとされる一方、現在、安全性や環境へのえいきょうが問題視されています。安定的生産と安全の両立のためには、何が必要なのでしょう。ここではそれらを一通り見ていきます。

■ 農薬の安全性の確保

農薬とは、農作物を食いあらず虫や病気をもたらす菌などを退治したり、水田の雑草などを取りのぞいたり、農作物の成長をよくしたりするために使われる薬です。農薬のおかげでたくさんの農作物が収かくできるようになり、農家の人たちの仕事も楽になっています。

しかし、農薬を使いすぎたり、使い方をあやまったりすると、農薬を使う農家の人たちはもちろん、農作物を食べた人たちも病気になってしまうおそれがあります。また、まかれた農薬が風でほかの場所に飛んでいくと、環境にも悪いえいきょうをあたえるおそれがあります。

そのため、国は法律を定め、農薬の登録制度を設け、きびしい検査に合格したものに限って、製造や輸入、販売や使用をみとめています。登録検査では、農家の人たちが使用するときの安全性や農薬としての効き目はもちろんのこと、出荷されるときに農作物に残る農薬（残留農薬）の量、水や土などの環境へのえいきょう、ほかの動植物へのえいきょうなども検査されます。なお、残留農薬については、2006年にポジティブリスト制度が新たに設けられました。この制度では、すべての農薬類を規制の対象とし、決められた残留基準をこえて農薬が食品に残っている場合、その食品の販売を禁止できるようにしています。特に、これまで規制がむずかしく、多量の残留農薬が検出されたことがある輸入農産物についても、この制度により、安全性を確認できるようになりました。

農作物に使用された農薬は、大気中への蒸発や風雨による洗い流しなどにより消失しますが、収かくのときに残ってしまう場合もあり、その量によっては食べた人に害をおよぼすことがあります。そのため、マウスなどの動物を使い、体重1kgあたりの※許容摂取量を求め、農薬の残留基準を決めています。ただし、この制度では、ある農作物にまかれた農薬が風により飛ばされ、ほかの農作物についてしまう「ドリフト」という問題が解決できません。ドリフトによって農薬がついた場合、残留基準をこえてしまう場合もあるからです。そこで、風の強さや向きを確認して農薬を使用するなど、ドリフトへの対策が求められています。

※ 許容摂取量 … その農薬を一生涯にわたって毎日取り続けても人体に害をおよぼさない量のこと。

■ 農薬散布のようす



■ 肥料・飼料の安全性の確保

肥料とは、農作物の生育に必要な栄養などを供給するため、おもに土にまかれるもので、大きく分けると、有機質肥料と化学肥料の2つがあります。

有機質肥料は、動物のふんや魚かす、油かすをはじめ、動植物質のものなどを原料としています。一方、化学肥料は、ちっ素^そやリン、カリウムの肥料三要素^{さんようそ}をはじめとした無機質成分でつくられています。

肥料は、国によってふくまれる成分の量などが決められています。有害成分などが多くふくまれていると、農地を汚染^{おせん}してしまい、農作物の安全性^{かんけい}を確保できなくなるからです。そのため、肥料は法律にもとづき、国に登録をしなければ、生産や輸入、販売ができないき

まりになっています。

また、家ちくのえさとなる飼料^{しりょう}は、とうもろこしなどが原料となっていますが、家ちくの成育に必要なミネラルやビタミン^{おきん}を補うため、飼料でん加物などを混ぜています。しかし、安全なちく産物を供給するためには、その安全性を検査する必要があります。そのため、飼料安全法という法律にもとづき、カビや残留農薬をはじめとした有害物質などの基準値^{きじゅんち}が設けられ、検査がおこなわれています。

■ トウモロコシ畑



■ 有機農法

農薬や化学肥料は、法律にもとづき、適切に製造、販売、使用されていれば、人や環境に悪いえいきょうをあたえることはないと考えられています。しかし、最近では、さらに安全と安心を求め、農薬や化学肥料は使わず、自然の力をいかして農ちく産物を生産する「有機農法」がおこなわれています。農薬や化学肥料の代わりに、生物農薬や動植物質のものなどを原料とする有機質肥料が使われているため、有機農法とよばれているのです。

なかでも、水田でアイガモを飼う「アイガモ農法」は、その代表的な存在として知られています。アイガモは水田の雑草を食べ、そのふんが肥料となります。そのため、除草剤^{じょそうざい}という農薬や化学肥料の使用量をゼロにすることができます。

また、有機農法に必要な有機質肥料を家庭の生ごみからつくるコンポストや、ミミズの生態を利用して土づくりをおこなうミミズファームというものがあります。コンポストは、微生物^{びせいぶつ}の働きにより生ごみを発

■ アイガモ農法



こうさせ、肥料をつくる容器のことです。ミミズファームは、ちっ素、リン、カリウムの肥料三要素がミミズのふんに多くふくまれていることから、このミミズの力を借りて土づくりをおこなう施設^{しせつ}です。

なお、化学肥料がなかった時代は、人のし尿^{しにょう}（大便と小便）が肥料として使われていました。たとえば、江戸時代^{えど}なかばには人口が100万をこえ、世界最大級の都市であったといわれる江戸（いまの東京）では、し尿が周辺の農家で肥料として使われていました。

■ コンポスト



このように、農薬や化学肥料を使わなくても、農ちく産物を生産する方法はあります。ただし、手間や時間、そしてなにより費用がかかる作業をとまなうため、価格も高くなってしまいます。しかし、昔の人たちの知恵^{ちえ}や自然の力を活用することで、安全・安心な農ちく産物がつくられるのであれば、その手間と時間が農ちく産物の価格を上げることになっても、消費者には受け入れられるのではないのでしょうか。



児童向け 日本の少子高れい化を考える

日本をはじめとする多くの先進国では、生まれてくる子どもの数（出生数）が減っています。出生数が減るということは、将来、その国の人口が減っていくことを意味しています。国の人口が減ることで問題だと考えられるのは、労働力が少なくなり、経済力が低下することです。しかし、人口が少なくなれば、その分、消費する水や食料、エネルギーなどといった資源を少なくおさえられるという見方もあります。

■ 社会保障費は上がり続けている



先進国では、もう一つ大きな問題があります。出生数が少なくなる一方で、高れい者の人口が多くなっていることです。現代は、少しずつ平均寿命がのびていて、高れい者が増えています。このため、医療や介護、年金など、社会保障に多くの費用が必要になっています。ところが、費用の財源となる社会保険料と税金をおさめる人口が減ると、社会保障を成り立たせるのはむずかしくなります。人口が減り、経済活動が縮小するなかで社会保障費が増えることは、国の財政にとってとてもきびしいことだといえます。

出生数が減り、高れい者の人口が増えている（少子高れい化）状況は、先進国全体に共通しています。特に日本は、少子高れい化がはやいスピードで進んでいます。急激に少子高れい化が進むなか、日本がどのようにして少子高れい社会を乗りこえるのか、世界中から注目が集まっています。

わたしたちは、少子高れい社会について考えるために、「なぜ出生数が減っているのか」「出生数を増やすことはできるのか」「少子高れい社会の問題は何か」を、しっかり理解しておかなければなりません。

■ 出生数減少の理由

少子化とは、生まれてくる子どもの数（出生数）が減っていく状態のことをいいます。特に、合計特殊出生率（1人の女性が一生に生む子どもの数の平均値）が、それまでの人口を保つのに必要とされる基準（日本は2.08）を下回っていると、少子化の状態にあるとみなされます。日本では、1973年をさかいに出生数が減りはじめました。減少のスピードは世界最速です。

日本で子どもが最もたくさん生まれたのは1949年で、269万人でした（合計特殊出生率は4.32）。出生数が200万人台から100万人台になったのは、1975年のことでした。その後、少しずつ減っていき、2016年にはついに100万人台をも下回りました（2016年に生まれた子どもの数は97万6979人）。

日本で出生数が減っている原因はいろいろありますが、その一つにあげられているのが、結婚をしない男女の増加です。2016年の婚姻率（人口1000人あたりの結婚件数）は、1973年（9.9件）のおよそ半分（5.0件）しかありません。

■ 3人以上の兄弟はいまや5家族に1家族



もう一つの原因とされているのが、結婚する平均年れいの上昇^{じょうしやう}です。妊娠・出産^{にんしん}には適した年れいがあり、女性は30才をすぎると少しずつ妊娠する可能性が低くなるとされています。

結婚をしない男女の増加、そしておそい結婚と高れい出産によって子どもを生む機会が少なくなったことが、出生数の減少につながっていると考えられています。

■ 高れい化が進む日本

全人口にしめる65才以上の高れい者の割合(高れい化率)が上がることを「高れい化」といいます。高れい化は、その割合によって次のようによび方が分けられています。

- 高れい化社会 … 高れい化率が7%以上 14%未満
- 高れい社会 … 高れい化率が14%以上 21%未満
- 超高れい社会 … 高れい化率が21%以上

日本で高れい化率が7%をこえたのは1970年で、14%になったのは1994年でした。「高れい化社会」から「高れい社会」になるまでにかかった年数は25年でした。さらに2007年には21%を突破^{とっば}し、日本は「超高れい社会」に入りました。この水準は世界最高です。

高れい社会とは、長寿^{ちやうじゆ}のお年寄りが多いということでもあります。生まれたばかりの子どもが平均で何才まで(何年間)生きられるかの予測は、平均寿命という数値で表されます。これは、医療制度^{いじょうじつ}の充実や、技術の発達、健康に関する教育など、その国の健康水準^{けんこうすいじゆん}や福祉の水準を表す目安ともなっています。

第二次世界大戦から間もない1947年にはじめて発表された日本人の平均寿命は、男性が50.1才、女性が54.0才でした。その後、生活水準^{くわうしやうすいせい}の向上、医学と公衆衛生^{こうしゆせいせい}の発展、医療サービスの進歩によって、1991年に日本は世界一の長寿国となりました。将来、日本の平均寿命はさらにのびて、2050年には男性は83.55才、女性は90.29才になると考えられています。

■ 超高れい社会に入った日本



■ 少子高れい化

少子化と高れい化が同時に起きている社会を「少子高れい社会」といいます。2017年現在、日本の全人口の4人に1人は65才以上の老年人口がしめています。このまま少子化が進むと、2030年には3人に1人が高れい者に、2050年ごろになると5人に2人が高れい者になるだろうといわれています。

2015年時点の高れい化率の世界平均はおよそ16%で、およそ6人に1人が高れい者という計算です。つまり、日本の高れい化率は世界平均の2倍以上であることがわかります。

年れい別人口で見て、生産年れい人口(15～64才)が豊富な国は、大きな経済成長をとげる可能性をひめています。人口増加によって経済成長がもたらされることを「人口ボーナス」とよびます。

日本の高度経済成長期を支えたのが、この人口ボーナスでした。ところが現在、生産年れい人口^{いじ}を維持するのに必要とされる年少人口(0～14才)が、年々減り続けています。このため、日本が今後、生産年れい人口を維持するのはむずかしいとされています。

工業におけるものづくり人口とともに食料生産のための農業人口など、労働人口が不足すると、生産力や経済力など、国全体の力が低下するおそれがあります。このため、人口が減少すると、国力の低下は避けられないという見方^{たいせい}が大勢です。



保護者向け 学校説明会で出題傾向を探る

初めて学校説明会に参加する場合、「何に注目すればいいの?」と心配になるかもしれません。そこで、説明会に参加する際の歩き方と基本的なポイントをまとめました。情報誌やホームページから手に入る情報もありますが、実際に学校に訪問しなければわからないこともたくさんあります。校風などを含め、学校ごとの違いを見極めて、子どもの性格に合いそうな学校や資質を伸ばしてくれる学校を見つけてください。子どもをこのように育ててほしいという家庭の方針に合った学校かどうか大切なポイントです。積極的に学校訪問をして頂くよう、おすすめします。

■ 学校説明会に参加する

▼ホームページで志望校をチェックする

まずはホームページを見ることで、その学校のおおよそを知ることができます。ホームページを見て、その学校に興味を持ったら、いよいよ次は実際に学校を訪問して自分の目で確かめましょう。

▼申し込みは早めに済ませる

最近では事前申し込み制の説明会も多くなり、満席になることもしばしばあります。気になる学校の情報は日頃からチェックし、早めに申し込んでおくようにしましょう。そのためにも日々のスケジュール管理は欠かせませんので、手帳は必携です。

▼基本情報を事前にチェックする

申し込みを済ませたら、説明会前日までに上履きの要・不要などの持ち物や校内見学の有無などを確認しておきましょう。また、受付開始時間や終了時間、入試本番当日にも必要となる学校までのルートや所要時間など、基本情報を事前に調べておきましょう。



■ 入学後のイメージを膨らませる



▼30分前には到着

説明会当日は、開始時刻の30分前には着いておきましょう。早く着くことで、それだけ多くの情報が得られます。参加している保護者の雰囲気などもチェックしておくといでしょう。

▼子どもが通学するルートで行く

説明会に参加する際は、実際に子どもが通うルートで行くようにしましょう。電車やバスの本数、乗り換えのほか、通学路の周辺環境なども見ておいてください。乗り換えの接続が悪くて意外と時間がかかってしまった、などに気づくことができます。入試本番当日の下見

もかねて、トイレやコンビニエンスストアの場所などもチェックしておきましょう。

▼開ロ一番に注目する

いよいよ説明会が始まります。このとき、開ロ一番のメッセージに注目してみましょう。進路や合格実績、学校行事や学校生活の話など、その学校が何を重視しているかが見えてきます。これはプログラム毎に割り当てられている時間などからも判断することができるでしょう。

▼話の内容はしっかりとメモをとる

校長先生をはじめとして、各先生から学校の方針や今後の公開行事、適性検査についてなど、具体的な情報が話されることがあります。聞き漏らさないようにして手帳に書き込んでおきましょう。志望校の学校説明会に参加すると、どうしても適性検査対策の話に気が向きますが、子どもの学校生活に直接関わりのある学校行事や部活動、進路指導などもしっかりと聞いて、わからないところがあれば質問するようにしましょう。個別の相談コーナーなどが設けられている場合は、「もし授業についていけなくなったらどうすればよいか?」といった質問をしてみるのもよいでしょう。そこから感じ取れる熱意や教育に対する考え方にも注目です。



■その日の感想を家族で話し合う

▼魅力を書き出してモチベーションアップ

帰宅後は、その日のうちにどんな学校だったかという感想を家族で共有しておきましょう。志望校の魅力を確認することは、子どもの受験へのモチベーションを上げるのに役立ちます。できれば、箇条書きでよいのでポイントを書き出しておくことをおすすめします。また、記憶が鮮明なうちに配布された資料などにも目を通して整理しておくようにしましょう。

▼施設・設備の印象も正直にまとめる

施設・設備の使用状況から受ける印象は、核心をついたものが多くあります。トイレや下駄箱、ロッカーなどは在校生の普段の生活ぶりがうかがえる場所です。ほかにも、黒板や掲示板は先生と生徒のコミュニケーションについて知ることができる場所ですので、ぜひポイントとしてまとめておきましょう。

■出題傾向がわかるポイント

校内を歩いていると、壁に作文が貼られていました。ふと目をやると、みな丁寧な字で書かれていました。つい見過ごしてしまいがちな学校説明会での一コマですが、実はそういった掲示物からも、「学校が育てたい生徒像」や「適性検査において求められている資質」を推測することができます。

学校行事などはその典型で、たとえば、夏の期間を利用して、オーストラリアへの海外語学研修をおこなっている学校があります。そのときの写真がホームページ上で公開されたり、説明会で紹介VTRとして上映されたりします。そこで、この学校の育てたい生徒像を見てみると、「国際社会に生きる日本人として豊かな感情と教養、及び語学力を身につけた生徒」となっており、さらに、適性検査問題にも、それに関連した問題が出題されています。そういった視点では、「校長先生からのお話」は直接的ではないものの、今年、何が出題されるかを探る最大のヒントとなるでしょう。ホームページや配布された資料と同じ話をしている、という印象を受けがちですが、そのくり返される中にこそ、攻略のヒントが隠されているのです。



公立中高一貫校が出題する適性検査問題の特徴は、複数の教科が混合し、教科横断型の問題になっているということです。算数や社会といった単独の教科に限定できない、いろいろな教科の要素が混ざった問題が出題されます。その中で、資料を読み取った上で計算させたり、文章で説明させたりします。さらに、作文を課す学校も多く、記述力や表現力なども必要です。まさに総合力が求められているのが公立中高一貫校入試というわけです。この総合力は、日々の学習習慣によって養われるといっても過言ではありません。

■ 黙読の秘訣は「要点読み」

学習習慣のポイントは、国語力の構築です。国語力を高める一番のお勧めは読書です。公中検模試センターの合格した児童の保護者へのアンケートでも「低学年から読書の習慣づけをしました」「受験学年になっても読書量は減らさなかった」「読むスピードが速くなった」など、読書についての回答がたくさんありました。特に「読むスピードが速くなった」というのは、公立中高一貫校入試には効果的です。国語の読解力は、読書量で差がつきます。小さいうちから読書の習慣をつける、読書に関心を向けさせることも必要だと思います。

読書について着目すべき点は、音読から黙読に変わっていくということです。小学校の国語の授業は音読が中心で、声に出して、耳から聞いて理解をしていくという方法が取られています。しかし、入試本番では音読ができませんので、黙読する力が必要になります。

黙読で重要なことは「要点読み」ができるかどうかです。声に出さなくても大事なところをしっかりと捉えていく読み方のことです。また、わからない言葉が出てきても前後の文章からその意味を推測して読み進めることができるという意味も含んでいます。音読から黙読への変化というのは個人差が結構あるようですが、親のほうから「黙って読んでみて」というような声かけをして、少しずつ黙読へと導きましょう。

■ 関心がある本を読む

本をあまり読まない子どもの場合は、特に子どもが読みやすい本や関心がある本を自由に読ませましょう。難しい内容の本は力になりません。興味のないものはやはり読みませんので、頭に何も入りません。こういった分野に興味があるのかわからないというのであれば、親が読んでよかったと思うような児童文学でも構いません。極端な話、推理小説でもよいでしょう。興味を持つものから黙読する力を培ってください。

■ 親子の会話

読書でも、大事なものは親から子への声かけです。内容や感じたことを子どもにどんどん聞いてください。「どんなことが書いてあったの?」というような声かけをして子どもに説明させることが大切ですし、「どこかわからないところとかあった?」というような問いかけも必要です。ですから、保護者の方も同じ本を読んでください。ぜひ、同じ本を読んで感想を言い合って家庭でのコミュニケーションを深めてください。

私国立中学入試でも公立中高一貫校入試でも、親子のコミュニケーションは重要です。よく「中学受験は家庭の受験」といわれます。特に母親の関わりが重要ですが、これは公立中高一貫校でもまったく同じです。

実際に公立中高一貫校に合格した児童の家庭は、そういった親子のコミュニケーションがよくできていることが多いようです。たとえば、勉強する場所も子ども部屋ではなく、母親が夕食の支度をしているとなります。子どもがダイニングテーブルで宿題をし、わからないところを母親に聞きます。いわゆる、ガリ勉タイプではないけれども、親の目の届く場所で勉強するからコミュニケーションも取れて、家庭学習時間も確保され、結果的に合格したという話は大変よく聞きます。

■新聞学習も効果的

読書と並んで効果的なものが新聞学習です。これについても、合格した児童の保護者アンケートでかなり多くの方が回答しています。また、東京都内の公立中高一貫校の校長先生も、学校説明会で小学6年生の夏ぐらいには一般紙も読めるような読解力をつけてほしいということをおっしゃっています。

新聞学習のやり方ですが、まず「新聞学習ノート」というものを作ります。新聞学習の第一の目的は、記事の内容を正しく理解することです。そして、第二の目的は記事の内容を要約し、自分の意見や考えをまとめることです。興味を持った理由を考えたり、記事を通じて感じたことをまとめたりして、相手に向けた文章を書く練習をしてください。新聞学習ノートを作ることによって、新聞記事を読んで読解力がつきまし、相手に伝える文章を書くということによって表現力が身につきます。

新聞を読む際の工夫もあります。ラインマーカーを使用します。重要だと思う部分にマーカーで線を引きながら読みます。これによって読解の定着度を親が知ることができます。

一つの記事で3分の1から半分ぐらいマーカーで線が引けるようになるとういと思います。このマークした部分をつなげて要約します。保護者の方は、子どもがどこを大事だと思って読んでいるのかをマーカーを引いた部分で確認ができますので、これで適切なアドバイスができます。

■新聞で身につけられるもの

▼語い

新聞は小学生にとっては知らない言葉が多く使われていますが、文章の中で生きた形で使われているのが最大のメリットです。知らない漢字を含めて、慣用句、ことわざ、四字熟語、外来語などに数多く触れることができます。言葉単独ではなく、文章と一緒に触れることにより、言葉の意味を推測する力がつきます。

▼文の構成

新聞は一文が短く、主語・述語の関係がはっきりして、筋道が通った文章で書かれています。句読点の打ち方や段落の分け方などもきちんとしていて、作文の構成のお手本になります。

▼社会的関心

新聞はその役割からして、社会的用語・時事的用語の宝庫でもあります。公立中高一貫校入試で出題される問題の中にも、テーマや素材として、新聞に書かれていた用語が目につきます。「生物多様性」「フードマイレージ」「仮想水（バーチャルウォーター）」「少子高齢化」「ユニバーサルデザイン」など、記事の中のこういった用語に関心を持つことで知識を広げることができます。

▼教科の要素

新聞を読むことで、主要4教科の学力の底上げも可能です。一番はもちろん、国語的読解力です。読解力が高まれば他教科にもよい影響が表れます。算数の場合、文章題を理解するといったことだけでなく、新聞記事には数字そのものがグラフや表と一緒に数多く載っています。その数字を考えることによって数の大きさや割合などの感覚を養うことができます。